

# 小学校における多文化教育の授業実践（要旨） — 「外国につながる人々」を知るための単元開発を通して—

学校構想サブプログラム

石山 沙希

【指導教員】 磯田三津子 宇佐見香代

【キーワード】 多文化教育 授業実践 多様性 外国につながる児童

## 1. 問題の背景

公立学校における日本語指導が必要な児童生徒数の推移は約10年間で1.8倍に増加した（文部科学省，2024）。都道府県別の調査では、埼玉県は日本語指導が必要な児童生徒数が全国第6位であることから、外国につながる児童生徒が多く在籍することが明らかである。多様な学び方や学び、価値観を受け入れていく共生の場づくりの必要性が求められている一方で、外国につながる児童生徒のアイデンティティの育成や母国に関する指導まで求められていないことやマジョリティの無意識の差別やマイノリティへの偏見などが散見される。共生社会を創るためには日本人の子どもたちの意識の変容のための授業づくりが不可欠である。

本研究は小学校における多文化教育を推進していくために、発達段階や教科の特性を生かして体系的に実践していくための教材開発と実践、その単元の有効性を検証する。特に外国につながる児童が少ないあるいは在籍していない学級における意識の芽生えを目的とした授業開発を行う。日本人児童が自分たちのマジョリティ性に気づくこと、自分の周りには多くの外国につながる人々の存在があることを知ること、その人たちと共に生きていくためにどのようなことが大切であるか、外国につながる人々が抱える生きづらさの裏側には、どのような日本人の偏見が存在しているのかを自覚することができる授業づくりを検討し、考察する。

## 2. 日本における多文化教育で育成する資質・能力

松尾（2023）は、多文化教育で育成される資質・能力を三つ挙げている。一つ目は、日本人性に気づき、自己変革しようとする力である。自分の考えや見方が他者にとって標準ではないことを問い直し、共生社会の実現に向けてマジョリティ側が変容する必要がある。二つ目は、文化的な差異を理解し、マイノリティの声に耳を傾ける力である。人間は多様な社会集団に属し、その立場が状況によって変化する。この多様性と同質性を理解する態度が求められる。三つ目は、新しいインクルーシブな多文化共生社会を築く力である。異なる価値観を認め、共通のルールを模索しながら協働する姿勢が重要である。

これらを「A 自己認識・自己変容」「B 文化理解と共感」「C 共生社会の構築」とまとめることができる。この資質・能力をもとに、多文化教育で目指す児童像を構想した。低

学年では外国文化への興味を育成すること、中学年では偏見に気づき行動を省みる力を育成すること、高学年では多文化共生社会を構想し行動に移す力を育成することを目指す。

## 3. 研究方法

埼玉県内の小学校にて第1学年から第6学年で授業実践をした。教科は生活科、社会科、特別の教科 道徳、学級活動（2）で実施した。

## 4. 結果と考察

### (1) 授業構想・単元開発の視点

全学年での検証授業により、低学年でも授業構想や単元開発が十分可能であることが確認された。外国につながる児童が少ないクラスでも、教科書題材の解釈を広げたり多文化に関する教材を活用したりすることで、児童に多文化への意識を芽生えさせる機会を提供できる。また、未実施の教科でも多文化教育の導入が検討可能であり、年間指導計画や総合的な学習の時間に関連付けることが重要である。

### (2) 児童像にせまる視点

松尾の資質・能力を基に、低学年から高学年の発達段階を考慮した児童像を構想した。低学年での体験を通じた興味喚起、中学年での無意識の偏見の認識、高学年での具体的な行動への移行という3段階の流れを設定した。本研究では限られた単元での実践に留まったが、実際には1年間の関わりを通して育成する能力である。学級づくりと授業づくりの両面から6年間を見通した指導が必要である。

### (3) カリキュラム・マネジメント的視点

教科横断的な多文化教育の可能性が示された。各教科の特性に応じた資質・能力の育成をカリキュラムに組み込むことで、効果的な教育課程を構築できる。たとえば、道徳の「国際理解・国際親善」をきっかけに他教科と連携させ、児童の意識を行動へと変容させる授業づくりを目指すことが多文化教育の推進の一助になると考えられる。

## 主な参考文献

松尾知明(2023)『日本型多文化教育とは何かー「日本人性」を問い直す学びのデザインー』明石出版  
文部科学省(2024)「外国人児童生徒等教育の現状と課題」  
[https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo\\_nihongo/kyoiku/taikai/r05/pdf/94063301\\_05.pdf](https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/taikai/r05/pdf/94063301_05.pdf) (2024年12月20日最終閲覧)